

# 技術・家庭科（家庭科分野）学習指導案

日 時 平成21年11月17日(火)  
学 級 紫波町立第一中学校  
1年6組 34名  
場 所 1年6組 教室  
授業者 太田直利

## 1, 題材 B 家族と家庭生活「わたしと家庭生活」

### 2, 題材について

#### (1) 教材について

学習指導要領「B 家族と家庭生活」の中に「(3) ア家庭や家族の基本的な機能を知り、家族関係をよりよくする方法を考えること」がある。本題材は、家庭は家族の生活の場であり、心の安定や安らぎを得ている場であることに気づかせ、家庭の仕事について自分でできることや家族と共に協力して行う事について体験を通して学ばせ、家族の一員としてどのような事ができるか具体的に考えようとする能力と態度を育てる事をねらいとしている。中学生になり自立への道を歩み始め、面倒を見て貰っていた立場から自らが生活を営む立場へ進むために必要なことである。

新指導要領の「A 家族・家庭と子どもの成長」の「(2) ア 家庭や家族の基本的な機能と、家庭生活と地域の生活について理解する」で取り上げられる内容である。

#### (2) 生徒について

本学級の生徒達は、素直で、前向きに物事を考えようとする生徒が多く、学習にも臨むが、挙手による発言は少ない。しかし、班での話し合いでは自分の考えを出したり、協力して和やかに話し合いを進めることができる。

家庭での自分の仕事は、固定で決まっている生徒は少なく、頼まれれば、時間のある時にはやるといった程度である。

#### (3) 研究に関わって

本教材は、生徒の生活を人気マンガの家族をもとに振り返らせたり、ロールプレイング等を用いて生徒達が調査し、それをもとに話し合い、理解を深めていくことができる内容となっている。

本校の研究テーマ「一人一人の表現力を高める授業のあり方」として、比較的、本題材は取り組みやすいものだと思われる。

中学生という時期は、自分のことについて素直に語ることが照れくさく感じてしまう時期である。また、自分の事はよく知っているつもりであったが、振り返ると違うことに気づくことができる時期でもある。

それゆえに、自分達の生活にも当てはまるが、人気マンガの主人公や家族の立場で話し合いを進め、課題の主人公として発言することで、より良い生活を営む手立てを見つけたり、客観的な立場で考えることができる。また、生徒一人一人が個々に考えを出すことで、家庭や家族の営みは多種多様であることを理解することができる。本題材のねらいの中にも、家族の形態や生活は多種多様であるとあり、それぞれの家庭で営みやかたちがあってよい。答えは1つではないので安心して発言ができると思う。

技術・家庭科での「表現力」とは、作品で表現することもしかりであるが、より良い生活を考え、実践しようとする態度も「表現力」であると思う。そして、それを見いだすためには話し合う中から見つけることができる。そのことを学ばせるよい機会であると思う。

### 3, 題材の目的

- ・家庭生活で行われている活動に関心を高め、より良い生活を営むための課題を考え、共に充実した家庭生活を実践できる。【関心・意欲・態度】
- ・家族の一員としての自覚を持ち、家族関係をよりよくするための方法について工夫する事ができる。【生活を工夫し創造する能力】
- ・家族が互いに立場や役割を理解し、協力して家族関係をよりよくするための方法についてまとめることができる。【生活の技能】
- ・家族の多様な形を理解し、一人ひとりが家庭内や社会とつながっていることを学び、現代生活に必要なはたらきについて理解する。【知識理解】

#### 4, 指導計画と評価計画

時間	学習課題・学習内容	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技能についての知識・理解	評価方法
1	・ドラマやアニメの家族をもとに、家庭でどんなことが行われているかを書き出し家庭のはたらきを知る。	家庭生活で行われている活動について関心をもっている。			家族の形についての考え方はさまざまであるが自分の考えをまとめることができる。	観察評価 学習シートによる自己評価
2	・現代における家庭のはたらきについて理解する。 ・家庭のはたらきと社会のつながりについて理解する。			家族の変化に応じて自分の役割や協力の仕方をまとめることができる。	生活に必要な基本的機能が説明できる。	観察評価 学習シートによる自己評価
3	・ロールプレイングを行い家族の問題をつかむ。 ・具体的に問題を捉えさせる。日常生活の中から具体的な事例を出し合う。		家族に問題が発生した時の解決方法について工夫する。		家庭の生活を家族が支えていることや家族以外の人々の援助による支えもある事を理解する。	観察評価 他者評価 学習シートによる自己評価

#### 5, 本時について

##### (1) 目標

- ・家族関係をよりよくするための方法を具体的に考えることができる。
- ・家庭の生活を家族が支えていることや、家族以外の人々の援助による支えもあることを理解する。

##### (2) 本時の構想

本時では、「自分だったらどうする」という、架空の家族の問題を見つけ、解決方法を考え、さらに、班での話し合いを通して、他者の考えと照らし合わせながら多様な考え方を得る事できる。そして、より良い解決方法をロールプレイングを行う事で、具体的に自分の生活に近づけることとなり、これからの生活で実践していく手立てになると考える。また、ロールプレイングを通して、自分達が発表することで考えをより明確にする事ができ。その後、自分の家族に振り返らせ、これからの生活にいかしていけるようしたい。

(3) 本時の展開

段階	学習項目	学習活動	時間	指導上の留意点
導 入	1, 前時の想起	<input type="checkbox"/> 家庭の働きや家事の担い手について学習プリントに聴き取り記入する。	3分	<input type="checkbox"/> 「聴き取る力」を高める手立て ☆全員が聴き取れるよう配慮する。
	2, 学習課題提示	<input type="checkbox"/> 本時の学習の見通しを持つ。	2分	
家族の問題を解決しよう				
展 開	3, 家族の問題解決	(1)「自分だったら、どうする」をもとにロールプレイングの仕方を理解する。	5分	☆ロールプレイングを行えるように手立てを明確にする。
		(2)個人で課題の家族の問題をみつけ解決方法を考える。	5分	<input type="checkbox"/> 「自分の考え（意図）」を明確にする力」を高める手立て ■評価場面Ⅰ：家族に問題が発生した時の解決方法について工夫ができるか。
		(3)班でお互いの考えを出し合い問題点を明確にし、解決方法を考え、台詞をつくる。	10分	<input type="checkbox"/> 「確かに伝達する力」を高める手立て ☆家族構成やその家族の背景を明確にして話し合いをさせる。
	4, 全体で「解決方法」を考える	(4)各班のロールプレイングを発表する。	10分	<input type="checkbox"/> 「聴き取る力」を高める手立て ★演技しやすいよう掲示ボードを用意する
(1)各班から出た、問題点をまとめ、それぞれの解決方法が正しいのか考える。		5分	<input type="checkbox"/> 「確かに伝達する力」を高める手立て ☆話し合った事をしっかりと発表できるよう支援する	
		(2)自分の生活を振り返り、これから「家族の問題」が生じた時、どう関わっていけばよいのか考える。	5分	■評価場面Ⅲ：家庭の生活を家族が支えていることや家族以外の人々の援助による支えもある事を理解する。
終 結	5, まとめ	<input type="checkbox"/> 本時の学習を振り返り、これからの生活にかかしていきたいことをまとめる。	5分	☆個人の家庭の問題に深く関わりすぎないよう配慮する。